

# 平成17年に発生した農作業死亡事故の概要

## 1 調査方法

本調査は、全国における農作業に伴う死亡事故の発生実態及びその要因を把握することを目的として、平成17年1月1日～12月31日までの1年間の農作業死亡事故について、都道府県職員が厚生労働省の「人口動態調査」に係る死亡小票を閲覧する等の方法により実施した。

## 2 調査結果の概要

### 2-1 概要 【表1参照】

(1) 平成17年の農作業死亡事故件数は、395件となっている。

(2) 事故区分別にみると、

農業機械作業に係る事故（以下「機械に係る事故」という。）は、263件（67%）

農業用施設作業に係る事故（以下「施設に係る事故」という。）は、23件（6%）

農業機械・施設以外の作業に係る事故（以下「それ以外の事故」という。）は、109件（28%）

となっている。

(3) 年齢階層別にみると、65歳以上の高齢者の事故が298件となり、事故全体に占める割合は75%となっている。

(4) 男女別にみると、男性が341件（86%）、女性が53件（13%）となっている。（性別不明が1件あり）

### 2-2 「機械に係る事故」の発生状況

#### (1) 機種別事故発生状況 【表1参照】

機種別では、乗用型トラクターによる事故が最も多く124件（機械に係る事故の47%）、次いで歩行型トラクターが55件（21%）、農用運搬車（動力運搬車、農業用トラック等）が30件（11%）と、これらの3機種で、機械に係る事故の79%を占めている。

#### (2) 原因別事故発生状況 【表2参照】

乗用型トラクターでは、機械の転落・転倒が90件（同機種による事故の73%）と最も多く、次いで回転部等への巻き込まれ10件（8%）となっている。

歩行型トラクターでは、機械と立木やハウス支柱等との挟まれが22件（40%）、農用運搬車でも、挟まれによる事故が8件（27%）と最も多くなっている。

2 - 3 「施設に係る事故」の発生状況 【表3参照】

作業舎の屋根等高所からの墜落・転落が12件（施設に係る事故の52%）と最も多くなっている。

2 - 4 「それ以外の事故」の発生状況 【表4参照】

稻わら等焼却中に火にまかれる事故が最も多く25件（それ以外の事故の23%）次いでほ場・道路からの転落が19件（17%）となっている。

表1 農作業中の死亡事故発生状況

(単位:件、%)

	平成2年	7年	13年	14年	15年	16年	17年
事故発生件数	384 {100.0}	397 {100.0}	396 {100.0}	384 {100.0}	398 {100.0}	413 {100.0}	395 {100.0}
農業機械作業に係る事故	282 (100.0) {73.4}	273 (100.0) {68.8}	272 (100.0) {68.7}	269 (100.0) {70.1}	282 (100.0) {70.9}	295 (100.0) {71.4}	263 (100.0) {66.6}
乗用型トラクター	136 (48.2)	128 (46.9)	146 (53.7)	123 (45.7)	132 (46.8)	135 (45.8)	124 (47.1)
歩行型トラクター	64 (22.7)	57 (20.9)	38 (14.0)	47 (17.5)	43 (15.2)	54 (18.3)	55 (20.9)
農用運搬車	35 (12.4)	42 (15.4)	32 (11.8)	45 (16.7)	37 (13.1)	39 (13.2)	30 (11.4)
自脱型コンバイン	19 (6.7)	11 (4.0)	9 (3.3)	11 (4.1)	13 (4.6)	11 (3.7)	10 (3.8)
動力防除機	2 (0.7)	3 (1.1)	7 (2.6)	2 (0.7)	4 (1.4)	5 (1.7)	4 (1.5)
動力刈払機	3 (1.1)	7 (2.6)	4 (1.5)	5 (1.9)	8 (2.8)	11 (3.7)	3 (1.1)
その他	23 (8.2)	25 (9.2)	36 (13.2)	36 (13.4)	45 (16.0)	40 (13.6)	37 (14.1)
農業用施設作業に係る事故	14 {3.6}	22 {5.5}	17 {4.3}	17 {4.4}	24 {6.0}	24 {5.8}	23 {5.8}
機械・施設以外の作業に係る事故	88 {22.9}	102 {25.7}	107 {27.0}	98 {25.5}	92 {23.1}	94 {22.8}	109 {27.6}
性別	男	331 {86.2}	325 {81.9}	331 {83.6}	329 {85.7}	351 {88.2}	354 {85.7}
	女	53 {13.8}	72 {18.1}	65 {16.4}	55 {14.3}	47 {11.8}	59 {14.3}
年齢階層別	60歳以上層	230 {59.9}	288 {72.5}	323 {81.6}	319 {83.1}	321 {80.7}	327 {79.2}
	65歳以上層	-	-	286 {72.2}	291 {75.8}	295 {74.1}	297 {71.9}
							298 {75.4}

注: 1 { }内は、事故発生件数の計における割合を示す。

2 ( )内は、農業機械作業に係る事故の計における機種別の割合を示す。

3 14年は未実施の府県がある。

4 17年は性別不明が1件ある。

表2 農業機械作業に係る事故の原因別件数(平成17年)

(単位:件、%)

機械の種類 事故原因	乗用型 トラクター	歩行型 トラクター	農用 運搬車	自脱型 コンバイン	動力 防除機	動力 刈払機	その他	合計
機械の転落・転倒	90 (72.6)	11 (20.0)	7 (23.3)	7 (70.0)	2 (50.0)	-	11 (29.7)	128 (48.7)
ほ場内	47 (37.9)	6 (10.9)	3 (10.0)	7 (70.0)	2 (50.0)	-	6 (16.2)	71 (27.0)
道路上	43 (34.7)	5 (9.1)	4 (13.4)	-	-	-	5 (13.6)	57 (21.7)
道路上での自動車 との衝突	8 (6.5)	7 (12.7)	7 (23.3)	-	-	-	-	22 (8.4)
挟まれ	6 (4.8)	22 (40.0)	8 (26.7)	2 (20.0)	2 (50.0)	-	4 (10.8)	44 (16.7)
ひかれ	2 (1.6)	4 (7.3)	3 (10.0)	-	-	-	2 (5.4)	11 (4.2)
回転部等への巻き 込まれ	10 (8.1)	9 (16.4)	1 (3.3)	1 (10.0)	-	-	10 (27.0)	31 (11.8)
機械からの転落	5 (4.0)	-	3 (10.0)	-	-	-	3 (8.1)	11 (4.2)
その他	3 (2.4)	2 (3.6)	1 (3.3)	-	-	3 (100.0)	7 (18.9)	16 (6.1)
計	124 (100.0)	55 (100.0)	30 (100.0)	10 (100.0)	4 (100.0)	3 (100.0)	37 (100.0)	263 (100.0)

注: 1 ( )内は、事故原因の計における割合を示す。

2 機械の種類の「その他」は、左記以外の機械の他、機種不明も含む。

表3 農業用施設作業に係る事故の原因別件数の推移

(単位:件、%)

事故原因	平成2年	7年	13年	14年	15年	16年	17年
墜落・転落	9 (64.3)	9 (40.9)	8 (47.1)	11 (64.7)	13 (54.2)	7 (29.2)	12 (52.2)
落下物によるもの			2 (11.8)	1 (5.9)	3 (12.5)	1 (4.2)	2 (8.7)
農薬による中毒	-	-	1 (5.9)	1 (5.9)	-	-	-
COガス等による中毒	1 (7.1)	4 (18.2)	3 (17.6)	-	-	3 (12.5)	4 (17.4)
酸素欠乏によるもの			1 (5.9)	1 (5.9)	2 (8.3)	1 (4.2)	-
感 電	-	-	-	-	1 (4.2)	-	-
火・熱によるもの	-	2 (9.1)	-	-	1 (4.2)	1 (4.2)	-
その 他	4 (28.6)	7 (31.8)	2 (11.8)	3 (17.6)	4 (16.7)	11 (45.8)	5 (21.7)
計	14 (100.0)	22 (100.0)	17 (100.0)	17 (100.0)	24 (100.0)	24 (100.0)	23 (100.0)

注: ( )内は、割合を示す。

表4 農業機械・施設以外の作業に係る事故の原因別件数の推移

(単位:件、%)

事故原因	平成2年	7年	13年	14年	15年	16年	17年
ほ場・道路からの転落	30 (34.1)	40 (39.2)	19 (17.8)	20 (20.4)	25 (27.2)	19 (20.2)	19 (17.4)
木等の高所からの転落			16 (15.0)	15 (15.3)	11 (12.0)	10 (10.6)	14 (12.8)
道路上での事故	8 (9.1)	4 (3.9)	6 (5.6)	2 (2.0)	3 (3.3)	4 (4.3)	4 (3.7)
稻わら等焼却中の火傷	3 (3.4)	25 (24.5)	20 (18.7)	16 (16.3)	16 (17.4)	17 (18.1)	25 (22.9)
家畜によるもの	7 (8.0)	6 (5.9)	-	7 (7.1)	5 (5.4)	2 (2.1)	5 (4.6)
農薬による中毒	9 (10.2)	3 (2.9)	2 (1.9)	2 (2.0)	-	2 (2.1)	-
蛇、昆虫によるもの	1 (1.1)	-	4 (3.7)	-	2 (2.2)	3 (3.2)	2 (1.8)
落雷によるもの	3 (3.4)	3 (2.9)	1 (0.9)	-	1 (1.1)	-	1 (0.9)
刃部によるもの			-	-	1 (1.1)	-	-
溺 水	8 (9.1)	1 (1.0)	13 (12.1)	16 (16.3)	8 (8.7)	19 (20.2)	17 (15.6)
作業中の病気によるもの	8 (9.1)	12 (11.8)	19 (17.8)	16 (16.3)	10 (10.9)	9 (9.6)	14 (12.8)
その 他	11 (12.5)	8 (7.8)	7 (6.5)	4 (4.1)	10 (10.9)	9 (9.6)	8 (7.3)
計	88 (100.0)	102 (100.0)	107 (100.0)	98 (100.0)	92 (100.0)	94 (100.0)	109 (100.0)

注: 1( )内は、割合を示す。

2 平成11年に事故原因の項目を組替えたため、それ以前のものについては「交通事故」は「道路上の事故」に、「火・熱によるもの」は「稻わら等焼却中の火傷」に読み替える。

表5 年齢階層別死亡事故発生件数の推移

(単位:件、%)

区分	平成 2年	7年	13年	14年	15年	16年	17年
15歳未満	7 (1.8)	5 (1.3)	1 (0.3)	4 (1.0)	5 (1.3)	4 (1.0)	3 (0.8)
15~19歳	2 (0.5)	1 (0.3)	-	2 (0.5)	2 (0.5)	1 (0.2)	3 (0.8)
20~29歳	3 (0.8)	4 (1.0)	4 (1.0)	2 (0.5)	5 (1.3)	5 (1.2)	-
30~39歳	17 (4.4)	9 (2.3)	5 (1.3)	4 (1.0)	2 (0.5)	4 (1.0)	8 (2.0)
40~49歳	29 (7.6)	36 (9.1)	16 (4.0)	17 (4.4)	17 (4.3)	14 (3.4)	14 (3.5)
50~59歳	96 (25.0)	54 (13.6)	47 (11.9)	36 (9.4)	45 (11.3)	55 (13.3)	37 (9.4)
60~64歳	122 (31.8)	135 (34.0)	37 (9.3)	28 (7.3)	26 (6.5)	30 (7.3)	32 (8.1)
65~69歳			71 (17.9)	58 (15.1)	57 (14.3)	60 (14.5)	43 (10.9)
70歳以上	108 (28.1)	153 (38.5)	215 (54.3)	233 (60.7)	238 (59.8)	237 (57.4)	255 (64.6)
計	384 (100.0)	397 (100.0)	396 (100.0)	384 (100.0)	398 (100.0)	413 (100.0)	395 (100.0)

注: 1 ( ) 内は、割合を示す。

2 年齢不明者が、15年の計には1件、16年の計には3件含まれる。

(参考) 都道府県別農作業死亡事故発生件数(平成17年)

都道府県名	事故件数(件)
北海道	31
青森	14
岩手	16
宮城	16
秋田	-
山形	8
福島	22
茨城	12
栃木	6
群馬	10
埼玉	4
千葉	10
神奈川	4
山梨	9
長野	10
静岡	5
新潟	9
富山	7
石川	-
福井	4
岐阜	6
愛知	5
三重	5
滋賀	-
京都	4
大阪	-
兵庫	11
奈良	-
和歌山	7
鳥取	4
島根	5
岡山	10
広島	14
山口	-
徳島	7
香川	4
愛媛	7
高知	-
福岡	9
佐賀	11
長崎	14
熊本	10
大分	7
宮崎	19
鹿児島	20
沖縄	-
全国計	395

注：1 東京都は本調査の対象外である。

2 事故件数が1～3件の都道府県は「-」で示す。

3 本調査結果は、厚生労働省の人口動態調査・死亡小票によるものであり、各都道府県が独自に実施している事故調査の結果と異なる場合がある。

4 都道府県毎に農業者数、主要作物の種類や機械化の状況、農作業に係る環境等が異なるため、単純な事故件数の多少の比較はできないことに留意願いたい。